

みんなの力で、変えようこの国の政治 作ろう!安全で安心な社会

- 日本医労連から全国の医療・福祉職場に働く仲間の皆さんへ -

小泉首相は、本日・10月10日国会を解散し、10月28日公示、11月9日投票で衆議院議員・総選挙を行うことを決定しました。

みなさん

小泉内閣と自民・公明・保守の与党3党は、2002年10月から高齢者の窓口負担を定率1割としました。今年4月からは、3000万筆の反対署名など国民の大きな反対をふみにじって、医療費負担増をとまなう健康保険法等の改悪法を強引に成立させました。また、国民に一層の負担を強いる介護報酬の「改定」、障害者「支援費制度」の実施までも強行しました。連続する医療改悪によって職場は大変な事態になっています。増員なしの入院日数の短縮や「合理化」が強まる中で、超多忙な労働を強いられ過労死さえも生まれています。

病気になってもお金を心配して病院に行けない、必要な介護・福祉が享受できない、働き続けることが出来ない職場、こんな国の医療・福祉政策を変えましょう。

みなさん

小泉内閣は、国立病院や労災病院、社会保険病院、自治体病院など国公立病院の統合や廃止などを進めています。また、国立病院の独立法人化にともない現在病院の医療を担っている7500名の職員の首切りさえも行おうとしています。

国公立病院は、民間医療機関では行うことが困難な救急救命・へき地・災害医療などの不採算医療や先進高度医療などの医療を行う使命を持っており、こうした病院の職員が首を切られたり、統合廃止されれば地域の医療を守ることができなくなります。

国公立病院の統廃合や人減らしを止めさせるためにも、この選挙で政治の流れをかえましょう。

みなさん

小泉内閣は、給付削減などの年金改悪、消費税増税などの国民への負担増をねらう一方で、自衛隊のイラク派兵や有事法制の具体化、憲法9条の改悪など、日本を戦争の出来る国へと変えようとしています。

日本の進路がかかった今回の総選挙ですが、マスコミなどは、民主党と自由党の合併を受けて「二大政党」「政権交代」をことさらに取り上げ、結果として国民の国の政治を変えたいとの願いをそらそうとしています。

11月9日の総選挙・投票日には、この国の主人公としてすべての医療・福祉労働者のみなさんが政治参加されるよう、に心からよびかけます。

2003年10月10日

日本医療労働組合連合会第3回中央執行委員会